

平成22年度

学校自己評価表（最終評価）

学校運営計画						
学校運営方針		1 単位修得の支援体制の整備と具体化 基礎学力の定着、履修率・修得率の向上、定通併修制度の充実 2 豊かな心を育む教育の充実と具体化 自律性の育成と規律の維持、教育相談の充実、人権・同和教育の実践 3 キャリア教育の充実と具体化 社会人として身に付けておかねばならない諸能力の育成				
昨年度の成果と課題		年度の重点目標	具体的目標			
・丁寧な学習指導や生徒指導の実施は一定の成果を上げたが、基本的な生活習慣の確立など継続の必要である。また、多様な生徒への対応について工夫・改善していかねばならない。 ・定通チャレンジ事業を核に生徒の基礎学力定着や学習意欲向上に取り組んだ。今後、外部機関や地域との連携深めより活動の工夫を図りたい。 ・教育相談に係わる職員研修により生徒理解についての知識と技術を得た。この成果を生かし、さらなる充実を目指したい。 ・キャリアの形成について、体系的組織的な活動を確立しなければならない。		・基本的な生活習慣の確立を目指し、生徒と教員間の信頼関係作りと問題行動の防止のために生徒指導係と各年次との連絡を密にする。 ・生徒会・クラスの諸活動を通じて学校生活を豊かにする ・関係諸機関との連携を通して、安全教育に配慮する。	・校内外の巡視や立番のなかで生徒への声かけをし、きめ細やかな指導を行う。 ・全校集会やHR指導、文書等を通じて注意喚起と情報提供を行い、事件事故の未然防止に努める ・挨拶の励行や身だしなみを正し、規律ある明るい学校生活を築く。 ・クラブ活動や学校行事を活性化させる ・車、バイク通学者へ交通安全指導を行う			
		・多様な生徒を理解し支援するために、全職員が教育相談に関する知識と技術を持ち実践するように努める。 ・特別支援が必要な生徒の指導の充実を図る。基本的な生活習慣を身につけさせる。 ・人権、同和教育を推進する。	・教育相談係と「単位制高校活性化相談員」を中心に、職員への適切な助言や研修計画を進める。 ・特別支援教育委員会が中核となり、特別支援が必要な生徒の支援について、関係諸機関と連携を図る。 ・人権、同和教育の活動を通して、自己理解・他者理解を深め、人権意識を培う。			
		・キャリア形成に必要な意欲、態度、能力を育てる。 ・進路希望を達成できるように、体系的なキャリア育成プランを策定する。 ・地域の特色を生かした活動を行い、生徒の学習意欲を喚起し、体験活動等を通して生徒の自尊感情や自己肯定感を高める工夫する。	・企業見学や職場体験等の機会を設け、社会人として必要な諸能力を育成する。 ・キャリアガイダンス部が中核となり、進路希望達成のための体系的キャリア育成プランを策定する。 ・就業体験などの活動を利用し、生徒が主体的な活動を行うよう工夫する。			
		・生徒の基礎学力定着や学習意欲向上を図る。（定通チャレンジ事業2年目）	・学校設定科目で外部講師による授業を行う等、生徒の学習への興味・関心を高める。 ・基礎学力定着や基本的な生活習慣確立のため、主体的学習を支援する体制確立を図る。			
重点目標	具体的目標	具体的方策	B評価基準		評価	
基本的な生活習慣の確立	学校生活の明確化	学校環境の構造化を意識し、生徒の混乱を予防する。保護者・外部機関との連携強化。	休学者を除き、出席率70%	B	B	
	心身の自己管理ができる	生徒の実態把握に努め、適切な保健情報を提供するとともに、必要な生徒には個別支援を行う。	年5回以上の保健だより発行	B	B	
	挨拶の充実と身だしなみを正し、簡単な善悪の判断ができる規律ある明るい学校生活を築く	生徒と教員間の信頼関係の充実を図り、問題行動を未然防止に目的をおき、担任及び各年次と生徒指導係とが連絡を密にとり、校内外の生徒個々の様々な状況を把握する。また、校内の巡視において授業中の生徒の様子を把握する。登校指導・お昼休み立ち番などで声をかけ、そこから普段の様子等を読み取り丁寧に指導とケアを行う。全校集会・学年集会や	問題行動による指導対象生徒延べ人数昨年度より約3割減の90人未満にする	C		
				B	B	

		HR指導、文書等を通じて注意喚起及び情報提供を行い、事件事故の未然防止に努める			
		基本的な生活習慣の確立をベースに規範意識の向上を図り、事件事故の未然防止を目的として、「MY LIFE」(学校新聞)を発行しタイムリーな情報を提供する	内容を吟味したものを月1回発行する	A	
	自動車・バイク・自転車通学者への交通安全指導	自動車・バイク通学者を対象とした実技講習会を年2回実施する。また、当日欠席者には後日補講指導を徹底する	講習会と補講を合わせた出席率を85%以上にする	B	B
		交通ルールやマナーと本校の規則を守らせるために、係りの指導体制を整え、登下校時及び昼休みの立ち番、駐輪場の見まわりを行う	係職員の業務への従事率を85%以上にする	A	
多様な生徒を理解し支援する	生徒理解を深めるための相談活動の充実	・相談室と保健室との連携によるカンファレンスの充実 ・「通信」の発行 ・相談係職員の研修	・原則週に1回打ち合わせを持つ ・年間3回発行する ・年間1～2回の研修を受講する	B	B
	教職員の理解を深める	・教職員研修の実施 ・生徒理解向上のための資料提供	・外部機関と連携し、年2回以上の研修会を行う ・関係図書を購入、他の情報を適宜周知する	B	B B
	特別支援教育の研究	・委員会の定期開催 ・事例検討会の実施 ・授業の工夫 ・就職支援	・委員会、事例検討会を適宜実施する ・各教科より具体的事例を収集する ・キャリアガイダンス部と連携し、個別の生徒に対応する	B	B
キャリア形成に必要な意欲、態度、能力を育てる	生徒の進路意識の啓発	進路ガイダンス、講演会、インターンシップ等の実施や『進路だより』の発行を通じ、自己を見つめさせ、進路意識の高揚に努める。	キャリア教育のプログラムを基に計画の90%以上の実施	A	A
	生徒の適性に応じた進路選択の支援	ハローワーク等の連携による個別指導を通じ、進路相談の充実を図り、適性や希望を的確に把握すると共に積極的に新規職場の開拓を行う。 特別支援を必要とする生徒に対して、外部支援機関との連携強化を図り、進路実現を目指す。 校外模試を計画的に実施し、結果を分析する。 進学説明会や学校見学会に積極的に参加させ、より高い進路実現を目指す。	卒業予定者の進路決定率70%以上 大学・短大を希望する生徒の第1希望の合格率が前年度を上回る	C	B B
基礎学力定着や学習意欲向上	「わかりやすい」「身近な」教材を工夫し、年間指導内容を蓄積	シラバスをもとに、わかりやすい補助教材や体験的学習の工夫を進め、年間指導計画の中に位置づけをする。	各期末に実施するアンケートで、生徒の65%が興味関心を持ち授業に取り組んでいる。	B	B B

する。(教務)				
情報教育支援と 図書、視聴覚器 材の利用の推進 (教育情報)	授業での利用も含めた生徒の図書室利用の推進。長期休業前の図書貸出の推進。	年3回以上の図書通信の発行。	B	B
学習意欲の向上 を図る(国語)	・生徒学習意欲を喚起するような取り組みやすい教材プリントを工夫する。	各種課題等の提出率80%以上。	B	B
	・生徒が授業の中で、自分の考えをまとめられるような発問の仕方や、授業展開を工夫する。	80%の生徒が授業者の問いかけに反応できる。	B	
基礎学力の向上 をはかる(地公)	補助プリントや資料、視聴覚教材などを利用し、わかりやすい授業を目指す。	理解できたという生徒が70%以上となる。	B	B
	学校設定科目での授業内容、実践方法を工夫し、興味を引く授業を目指す	毎回自主教材を作成する。	A	
生徒一人一人が 意欲的に数学に 取り組むように する(数)	習熟度別少人数授業の利点を生かして、個々の生徒に適した教材を提供し、興味の喚起や課題完成時の達成感を味わせる指導を実践する	授業アンケートにおける生徒の満足度が、60%を上回る	B	B
自ら積極的に学 習に取り組む態 度を培う。	開講科目のシラバスをもとに、わかりやすい補助教材などを用いて、基礎学力の定着を図る	考査を受験した生徒のうち60%が欠点を取らない。	B	B
基礎・基本の定 着を図る。(理)	実験や演習実験、体験的学習の工夫をすすめることで、生徒の興味関心を引き出す授業の実践を行う	生徒の60%が興味関心を持ち授業に取り組んでいる。	B	
基礎学力の定着 を図る(英)	「翠江生の英単語850」をもとに、月1回単語テストを行う中で、生徒が苦手意識を克服し、やる気を出し、達成感を得られるようにする	10年次全体の平均点9点(20点満点中)を目指す	B	B
体力増進と基礎 学力の醸成によ りスポーツに必 要な運動能力の 伸長を図る。(保 体)	生徒の体力、学力をを踏まえた指導を心掛ける。	学校体操70%以上の習得	B	B
基礎的な技術の 習得と表現と鑑 賞に活用する能 力を養う。(芸 術)	個々に応じた教材を工夫し、基礎技術の習得と定着を図る。	基礎技術の習得率60%以上。	B	B
	豊かな感性を育むため、鑑賞の内容を充実させる。また自己表現の場として校内での作品展示または発表を行う。	受講生徒の60%以上が作品を発表または展示する。	B	
基礎基本の習得 (家)	自立に向けて基礎的基本的な知識と技術を習得させ、実生活に生かすための意欲や能力を身につけさせる。	年間授業時数の5/10以上を実験実習に当てる	B	B
将来のスペシャ リストを目指し た基礎基本の徹 底を図る。その	授業の中で、検定受検に対する意欲づけを日常的に図る。	受講生の20%(延べ人数)以上の補講へ出席すること	B	B B B
	きめ細かい指導と各種検定前の補習を実施する。	各種検定合格者を受講		
	資格取得のための指導の徹底を図る。そのためにも			

<p>ためにも、生徒の実態に応じた、教材を精選し活用する。(商業)</p>	<p>分かる授業を創造する教材の工夫を心がける。 生徒一人一人をしっかり把握し、個に応じた指導を行い、授業の効率を高める。</p>	<p>者の35%以上を目指す</p>	<p>B</p>	<p>B</p>
<p>社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させながら情報活用能力の育成を図る(情報)</p>	<p>○情報モラルを踏まえた適切な判断が出来るようにする。 ○PCの活用を基に情報を受信・処理・発信する能力を高める。</p>	<p>受講生の90%以上がPCを活用し、プレゼンが出来る</p>	<p>B</p>	<p>B</p>
<p>成果</p>	<p>各分掌、学年、教科の活動は重点目標に沿った方策を行い、一定の成果を上げることができた。ただ、各分掌から下記のような課題が反省として挙がっており次年度の活動に生かしたい。</p> <p>●教務</p> <p>シラバスや指導方法の工夫により一定の成果を上げたが、さまざまな学習歴のある生徒に対して基礎学力定着・学習意欲の向上をはかることは課題が多い。生徒の能力・適性・興味・関心等に応じたきめこまかい指導が必要である。また教科担当者数の上限から開講できない授業があり、生徒の多様な選択に課題が残る。在籍年数や定通併修など規定集の整理・整備が必要。</p> <p>●キャリアガイダンス</p> <p>①進路全般として、進路を決定するまでに時間がかかる生徒が多いため、卒業年次はもちろん、各年次との連携が重要である。特に職安就職を目指す生徒に対しては早めの採用試験対策が必要である(基礎学力やコミュニケーション能力の向上等)。</p> <p>②特別支援関係として、療育手帳を持っている生徒等に対する進路保証をどう進めていくかが大きな課題となる。なお、今年度は、特に『障がい者職業センター』にお世話になった。今後も外部支援機関の活用が重要となる。</p> <p>●生徒指導</p> <p>同じ生徒が、何度も指導を受けることがあった。これは、毎年継続している課題でもある。また、善悪の判断が甘いため、集団の中で自制しあう関係がなく問題行動が継続することも出てきた。</p> <p>生徒間のトラブルは、担任や教科担当に相談するという指導に成果がみられた。しかし、依然として自分から解決しようとして問題行動を起こす生徒もいるので、徹底を図りたい。</p> <p>●「定通課程の充実・改善を図る事業(定通チャレンジ事業)」</p> <p>平成21年度から行われた事業のまとめが行われる。学校設定科目「世界の文化」「環境と植物」や1年次の企業見学、保育所での就業体験、2年次の全員参加によるインターンシップが実施された。地域の自然や教育機関等外部資源を活用した特色ある教育活動についての実践活動を行う。生徒には意義ある活動だったが、地域との協力関係の継続が今後の課題となる。</p>		<p>総合評価</p>	<p>B</p>